



みどりの風

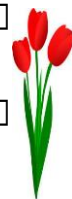
公益財団法人
 奈良市生涯学習財団 月ヶ瀬公民館
 奈良市月ヶ瀬尾山 2815 番地
 TEL&FAX 0743-92-0346
 発行人 館長 上田 善紀
 発行日 平成 29 年 6 月 22 日(木) 第2号

「こんな講座をしました」①

〜五つ星★交流キャンプ〜

クリエートに集った東部っ子

東部の5公民館が協働で企画、実施する小学生交流ディキャンプ「五つ星★交流キャンプ」を、6月3日(土)、クリエート月ヶ瀬で行いました。月ヶ瀬から10名の参加があり、総勢63名の子どもたちが、楽しい時間を共有し合い、交流を深めました。



■西原 乃愛さん (6年) : 去年のキャンプで知り合った田原のみくちゃんとお会いしました。「覚えてる?」と声をかけ合って去年のことをいっぱい話しました。スタッフさんが楽しくてキャンプファイヤーがとてもよかったです。



トーチ係として点火する西原 乃愛さん

■西岡 太智 (たいち) くん (5年) : 今までカレー作りは何度もしてきました。なので、じゃがいもなんかもてきぱき切れた。田原のゆづき君や「おやつ、どんなもん持って来たん?」などとおしゃべりをして楽しいキャンプだった。

■西脇 春菜さん (6年) : 都那のこぼるちゃんと新しい友だちになりました。一緒に野菜を切ったりイス運びをしたりしながら、仲良しになれた実感をもちました。

■久保田 清丸くん (6年) : ぼくは毎年参加の6回目。去年までどちがって半日のキャンプで残念でしたが、スタッフのゲームがおもしろくて楽しい半日でした。班のリーダーになったけど、しっかりとみんなをまとめることができたように思う。柳生のしゅうだい君とよく話せた。



↑ かまどの火はまかせろ! とばかりに、しっかりと火を見守る久保田 清丸くん



↑ もくもくと、じゃがいもの皮をむく 井岡 悠人くん (3年)

ありがとう! 花いっぱい運動

◇◇◇◇◇
 村立時代から20年以上続いている、月ヶ瀬中生たちによる地域貢献活動の一つ「月中花いっぱい運動」が今年もありました。

環境部のみなさんが、きれいに咲いたチューリップとマリーゴールドのプランターを届けてくれました。地区内すべてのバス停のほか、公共施設20数か所に届けているそうです。月ヶ瀬中生のみなさん、ありがとうございました。



西森 英政くん (9年)、新中くん ← 上田 爽楽くん (7年・中央)

新中 智己くん (9年) と 奥田 文香さん (8年)



月ヶ瀬薫風

月ヶ瀬の人ならだれもが知っているクリエート月ヶ瀬ですが、市街地の市民には案外知られておらず、立派な施設なのに野外活動に利用する小中学校はそう多くありません▼この施設は、都市交流を検討していた旧月ヶ瀬村と友好提携を結んだ松原市が、市制30周年記念事業として1987(昭和63)年にオープンしました▼この5館協同の取組は、小規模校の子どもたちにとって、他地域、異年齢の友だちと交流する、またとない貴重なキャンプとなりました。事後の感想にも、新しい友だちができた喜びを書いてくれました▼職員やスタッフの方々のゆきとどいたサポートのおかげで、充実した時間をつくることができました。

こころな講座をしました①

〜キッズビクスで楽しく〜

小学生対象の講座「茶芽っ子クラブ」に、今年度19名もの子どもたちが集まりました。

その第1回目がキッズビクス。6月17日(土)、スポーツフィットネスインストラクターの山本三歌代さんに手ほどきをしてもらって、体遊びやストレッチで体と心をほぐしました。

初めて参加しました

■相和 伊織くん(4年) …友だちの悠真君も去年やって楽しんでくれたから参加しました。

■相和 小町さん(5年) …大好きな春菜ちゃんと一緒にやりたいなって思って参加しました。

■阪本 真由さん(1年) …うみんかんからのおてがみを見て、たのしそうだったから…。



みんなの気持ちをひとつにして、バルーンでボールをはずませます

こころな講座をしました②

〜手作り・梅酵素ジュースと梅干し作り〜

梅干し作り

6月16日(金)、栄養士の資格を持つ猪飼 久子さん(尾山)を講師として梅酵素ジュース作りの講座をもちました。

猪飼さんは、消費生活アドバイザーの資格を持ち、有機農業を実践。食・農・医をテーマとして他の公民館や市外各地で講演・講習活動を行っているらしいです。



梅の実を手に説明する猪飼久子さん

5月の俳句

月ヶ瀬句会・ますみ選

- カニすのの空にひびいて里光る 昭子
- 健やかに粽に包む親心 和代
- 古都を往くフードも着るワールシャツすま 由姫子
- 口寄せて夏日吸ひ込む池の鯉 旅人
- 恋ばなし顔く野ばらだけの宵 かつ野
- 桐の花咲くや届きし婚しらせ

月ヶ瀬小・中学生のみなさんへ

これから必要になる学力は

〜親子でいろんな会話を〜

5月17日(水)の新聞各紙に、2020年度から始まる新しい大学入試について、そのテスト例も示して大きく報じられていました。現在の中学3年生からがその対象となる新テストとは、いったいどんなテストなのでしょう。

① これまでの知識を問う問題から、考えたり判断したりしたことをきちんと文章にできる表現力を問う問題となります。

② 国語だけではなく、数学でも解き方を説明させる問題が導入されます。

③ 新聞記事や統計資料、契約書など実社会、実生活と関わりの深いものが題材となります。

④ 多くの専門家からは、
ア) 生徒に考えさせる対話型授業の積み重ねが必要である。
イ) 様々な文章を読み取る力(読解力)が必要である。

ウ) 自分から進んで調べる学習をする勉強が大事である。
エ) ふだんから、書くこと習慣を身につける必要がある。

フ) いろいろな意見が寄せられている。といった意見が寄せられている。

問題例も示されています

文部科学省が考えている新しい入試問題について、イメージがわくように問題例も示されています。

街並み保存の施策(しきく)を進めるある市が作成した説明資料というものが題材。保存地域に住む親子が、市の保存方針をめぐって互いの考えを話し合う会話文が問題文です。その会話文を読んで、親子の議論の対立点は何か、一と一のことを説明させるというものが設問です。

一方、5月23日付読売新聞(伊賀版)に、三重銀行のシンクタンク(調査研究機関)、三重銀総研が行った、あるアンケートの結果が掲載されていました。

企業の採用担当者に新卒採用で重視していることを尋ねた結果、「コミュニケーション能力」(72%)が最も多く、新入社員に「対話力」を求めていることがわかりました。

親子でいろんな話題について会話をしている時間を持つというのは、家族のきずなが深まる「おまけ」もついてきます。

